

手をつなごう。さらに広げよう！ 27年の歩み

2020年(令和二年)4月10日発行

Linkage Magazine**Musashino & Brasov****2019年度 第4号** (通刊125号)

発行: 武蔵野ブラショフ市民の会

理事長 大橋 一範

SINCE 1992

訃報

平井安子副理事長が、2020年1月10日、80歳でお亡くなりになりました。
1月13日(月)通夜、14日(火)告別式が、吉祥寺四軒寺の一つ蓮乗寺で行われました。
ここに謹んで、ご報告申し上げます。

2020年度総会について**理事長 大橋 一範**

「武蔵のブラショフ市民の会 大橋」この名義で、今年度総会日時 5月23日 午後、会場吉祥寺南町コミセン会議室を押さえました。
しかし、新型コロナの影響で、総会が出来るかどうかは、かなり問題がありますので、理事長提案としてもし総会が開催されないようであれば、暫定的に、総会決定事項を、役員体制を含めて、前年度通りにする。
これに異議のある方は、書面またはメールで、理事長宛にお知らせ下さい。
異議が過半数を超える場合は、可能な日時に、改めて総会を開催する。

総会に関する問い合わせ：(大橋 一範)

Fax 0422-46-9666

Email kichijoji@tokyo-net.ne.jp

目次

- | | | |
|---|-------|--------|
| ◆ 2020年度総会について | 大橋 一範 |1 |
| ◆ 武蔵野ブラショフ市民の会・新年会 | 藤田 琢磨 |2 |
| ◆ 故平井安子副理事長を偲んで | 大橋 一範 |3 |
| ◆ ヨシペル駐日ルーマニア大使閣下よりのお悔み | |4 |
| ◆ みや こうせい氏企画 冬のルーマニアの旅路 | 井口 真澄 |5 |
| ◆ 「行ってみルーマニア」ホストタウン講座と
「ルーマニア料理を楽しむ会」ご報告 | 佐藤 芳則 |8 |
| ◆ 当会への問い合わせ | |8 |

武蔵野ブラショフ市民の会・新年会

藤田 琢磨

2020年2月6日（木）に、恒例の当会の新年会が賑やかに開催されました。場所は、いつもの吉祥寺第一ホテル2階レストラン“パークストリート”です。今回は、別室の余裕があったため、当会だけの落ち着いた雰囲気での新年会となりました。

参加者は21名でしたが、従来からのコアの会員・支援者・賛同者に加えて、武蔵野市民の代表者でもある武蔵野市議会の与座副議長と深沢議員に同席していただき、武蔵野市に拠点を置く当会のすそ野の広さを実感いたしました。

新年会は前理事長藤田の乾杯の挨拶で開始されました。そして大橋理事長の軽妙洒脱で親しみのある挨拶に、参加者も熱心に聞き入っていました。

そして、現在当会顧問であり、武蔵野市長および衆議院議員をも務められた土屋正忠さんも駆けつけていただき、ルーマニア・ブラショフ市と市民の会が親密となった経緯や歴史をひも解いていただきました。長期間にわたり当会を指導し、盛り立てていただいている土屋さんには心よりお礼を申し上げます。

ハイライトは、ルーマニア大使館から参加していただいた、大使秘書官のシルビアさんとクリスティーナさんのご挨拶でした。特にシルビアさんは長年にわたり、当会との窓口を担当していただくとともに、各種会合にも参加していただき、当会との確固たる信頼関係の構築に多大の貢献をされています。

今年は、東京オリンピック・パラリンピックの年でもあり、ルーマニアとの交流は、武蔵野市役所を中心として一層の盛り上がりが見込まれますが、各種関連のイベントを通じて、市民の会も交流に協力出来ることを確認できる充実した楽しい新年会でした。新年会の最後に記念写真を撮りお開きとなりました。その時の写真を添付していますのでご覧ください。



(写真提供:大橋事務所)

故平井副理事長を偲んで

理事長 大橋 一範

平井安子さん、ありがとうございました！

1月13日、武蔵野ブラショフ市民の会副理事長・故平井安子さんの通夜に、松下玲子武蔵野市長や当会のメンバーが参列した。葬儀14日に無宗教式で行われた。故平井さんは、当会創設期からのメンバーであり、武蔵野市がTOKYO2020でルーマニアのホストタウンに決定したときには、当会を代表して、2016年1月26日に、NHK山田大樹キャスターの取材を自宅で受け、NHK首都圏ニュースに登場しました。(週刊きちょうじ2016年1月29日発行)

ルーマニア・ブラショフからの留学生招聘の中心人物として、行動した。特に訪日時と離日近くにはホームステイを引き受け、「日本のお母さん」として親しまれていた。

会を代表して、謹んでご冥福をお祈りいたします。



2019.5.18

総会司会役を終えた懇親会での席にて



写真提供：週刊きちょうじ

ルーマニア語講座 吉祥寺で開催している会話講座です

2020年東京オリンピックでルーマニアのホストタウンとなった武蔵野市。多くの注目を集める中、会ではルーマニア語だけではなく、現地の習慣や伝統、文化などのお話し、ゲストを招き交流なども行っています。アットホームな雰囲気で見学もできますので、初心者の方でも気軽にご参加いただけます。(会場は、変更の時もあります。)

- ◆日 時：毎月第1・第3水曜日 13：00～15：00
- ◆場 所：御殿山コミュニティセンター tel：0422-48-9309
- ◆参加費：2回分2,000円(月単位払い)
- ◆問合せ先：「会」E-mail アドレスへ musashino_brasov2020@yahoo.co.jp
- ◆講 師：山田エリーザ(ルーマニア トゥルゴヴィシュテ出身)

駐日ルーマニア大使閣下より、お悔やみをいただきました。



Embassy of Romania in Japan

2020年1月13日

平井やすこ様のご逝去の報に接し、深い悲しみの念を禁じ得ません。在日ルーマニア大使館を代表し、哀悼の意を表し、ご遺族の皆様に対し謹んでお悔やみを申し上げます。

平井やすこ様は、武蔵野ブラショフ市民の会のメンバーとして、ブラショブ市の留学生をいつも暖かく歓迎していただいたりして、ルーマニアと日本との絆を強化するために、多大なる貢献と活躍をされた方です。安らかなる眠りをお祈り致します。

ヨシペル・タティアナ
駐日ルーマニア大使

I heard with regret of the sad passing of Mrs. Yasuko HIRAI. On behalf of all the members of the Embassy of Romania, I would like to offer my sincere condolences to Mrs. Hirai's family and friends.

As a member of Musashino-Brasov Citizen's Committee, Mrs. Hirai has always welcomed the exchange students from Braşov, and supported over the years the development of the strong bond between Romania and Japan. I offer my sincere prayers for her eternal rest.


Tatiana JOSIPER
Ambassador

会員の皆さまへ：入会御希望の方へ：

会費は、会報紙の発行や「会」事業の補充金として使われています。
年会費を納入していただくことで、更新および加入手続きは完了します。
会費納入は下記へお振込み頂くか、お近くの理事までお願い致します。

(入会金・不要。 会計年度は 4月～翌年3月です)

◎：2020年度 年会費： **2,000円** 賛助会員： □ 5,000円

◎： ゆうちょ銀行から振り込むとき

記号 10190 番号 16976301

◎：他の金融機関から振り込むとき

ゆうちょ銀行

店名 〇ー八（ゼロイチハチ）

店番 018

預金種目 普通預金

口座番号 1697630

名前 ムサシノブラショフシミンノカイ

振込先が
変更になりました！

みや こうせい氏企画 冬のルーマニアの旅路

井口真澄

思い起こせばルーマニア民族衣装展のボランティアに参加した時の事。

ご来場下さった、ちょっと風変わりな特別な雰囲気醸し出す男性に「ルーマニアにご興味がおありですか？」と声をおかけしたその方は、展示されていた一冊の書籍を指差し、「これ僕の。」「えっ!？」

日本のみならずヨーロッパでも、マラムレシュの著書や写真集を数多く出版されていらっしゃるルーマニアのフォークロアのスペシャリスト、みや こうせい氏との出会いでした。

清新な指導者のイメージでチャウシェスク政権が誕生した 1965 年に、偶然ルーマニアに足を踏み入れ、出会う人々の薦められるままに辿り着いた、ヨーロッパのエアポケットとも隠れ里とも言われるマラムレシュ。

その魅力に取り憑かれてしまったと自負なさる、みや氏のフィールドワークは足早に 54 年の月日が流れており、192 回目のルーマニア訪問になる今回の冬の旅路に同行させて頂く運びとなりました。



みや こうせい氏



この旅のハイライトは、何と言ってもバカウ周辺の村々で催される年越えのお祭り Urs dans (ウルスダンス) その名のとおり、太古の伝統舞踏「熊の踊り」。

12 月 30 日、前日の吹雪は何処へやら、久しぶりの快晴。

祭りの準備段階からお邪魔する事を許されたアサウ村に到着し、真っ先に目に飛び込んできたのは 2 匹の子熊。いや子熊人間。

遙か昔には藁で作られていたそうですが、職人の技によって丹念に仕上げられた重さ 15~ 40 キロもする熊の顔付毛皮の着ぐるみで、ヨチヨチと歩くしか仕方がない姿は、熊の真似をしているところか、二本足で器用に歩く熊そのもの。

背中につけた命の象徴の赤い大きな 2 つの房飾りが無ければ、此方は一目散に逃げ出すか、死んだ振りをするしか手がなさそう。

見回すと、衣装のまま道を歩いてくる若い女性や、車から連れ立って降りてくる青年達の迫力ある姿の一種異様な光景に、ただポーズンとしてしまいました。

起点となる一軒の前庭には支度中の熊、熊、熊！オレンジの皮が効いた自家製ロゼのホットワインが振舞われ、暖をとらせて頂き、気合を入れて好奇心満々で近づいていきました。(野生の熊じゃないっていうのに…)

大事に扱われ、よく手入れをされている毛皮は臭いもなく、毛ざわり最高！手足の大きな黒い鍵爪の見事さ、肉球が厚くて固いこと固いこと。片腕だけでもズッシリとした重みに、これ着て踊れるんでしょうか?! この衣装を着ると笑顔やお喋りが影を潜め、熊の化身となりつつあるのか、はたまた外国の観光客と思しき人達は東洋人の私達だけのようで、熊の衣装と同じ位、珍しがられて大人しくなっていたのでしょうか？

森林が約 3 割のルーマニアは、熊が生息する山岳地帯ではなく平地で「神聖な生き物」「力の象徴」と崇められおり、その昔、生まれたばかりの子供に熊のあぶらを塗ると、熊の力と運が宿るとされる教えや、病気の人は熊の毛を燃やした煙で身を清め、病気がちな人には「熊」という名前に改名する事で、病を身体から追い出していたそうです。

中世に入ると、ロマの人達(ジプシー)が特別に調教した子熊に、人の背中を踏ませて痛みを和らげるマッサージをしていた時代もあり、その後、踊りを仕込んで芸を披露して村々を点々としていた事と、神聖な生き物としての伝統とが結びつき、現在のウルスダンスに発展した模様です。

「悪いものを追い払って、新しく迎える年を祝福する」

「厳しい冬を乗り越え、春の訪れを告げる」

「死者の一時的な帰還を祝う」

「自然 死 命 の復活を祝う」

踊りの構成やテーマは村々によって様々な趣きがあるのかもしれませんが。

アサウ村のウルスダンスは、中心の広場で少年少女達によって織りなすコリンダをはじめ、この地方伝統の歌や、山羊の踊り、ロマの踊りの後、クライマックスのトリを飾ります。

ロマに扮する方達が、長い鉄筒から爆音と共に発射される火薬が次々と打上げる中、太鼓、笛、ホイッスルの兵隊さん扮する楽団を先頭に、サーカスの団長扮する熊使い達が続き、人間の顔が見えないように頭を下げて、横歩きで列をなす熊の集団が引きつられて登場すると、続いて毛むくじゃらで干し草の固まりのような装いに、天狗そっくりの面を被った邪悪なもの扮する人達、ロマの女性達、太陽と月に扮する人達もこのテーマには欠かせない登場人物の一行が動き出します。



広場に到着すると、団長の掛け声(熊を野生に戻す)と共に、熊達は前向きになって赤い房を大きく揺らすよう身体をくねらし「ブルルルー」と時折鳴き声を発して勢いよく踊ります。邪悪なものたちは熊達の円のなかの前方に固まり、後方では熊の長が、太陽と月が肩に担ぐ丸太の上に一本の棒のみで身体を支えて仁王立ち踊り(自由の歓び)、すると突然静かに(死、冬、冬眠)、団長とロマの女性達に羽のスティックで頭とお尻を叩いてもらうと、又水を得た魚のように勢いよく踊りだします(復活、春、目覚め)。こうして 3 度このパターンが繰り返され、晴れて復活し、今年の儀式が幕を閉じるのでした。

旅の終盤、白銀の世界のドルヘシュティのホームステイ先では、「日本の友人が来る！」と村をあげて本格的な年越しのパーティを企画して下さっていました。

丸い縁飾りの大きな白パンをちぎって塩を付けて頂き、ツイカをグイッと一杯、という歓迎の儀式で出迎えられ、この時期ならではのポーク満載の伝統的な食事に音楽やダンスで盛り上がりました。「皆の健康と幸せ、そして四季の移り変わりに感謝を捧げる」この村ならではの構成による自然と動物と人間が織りなす山羊と馬の踊りの劇に加え、第二次大戦後のロマ人が主役の一種の風刺劇が熱演されました。これは私達にあわせて、本来の日取りより 1 日早めて催されたものである事がわかり、感謝のしようもないくらい感激致しました。

心を込めた最大級のおもてなしを目の当たりにして、国賓になったかのような気分させていただき、ルーマニアに息づく寛大で豊かな精神性の真髄に、ちっぽけな自分もあやかりたいと思う夜でした。

チャウシェスク政権崩壊後、フォークロアの伝統が消滅する危機を乗り越え、今回私達が経験させていただいたエキゾチックな冬のルーマニアの素晴らしさに感動してやまないのは、ひとえに、伝統を大切に多くの方々の意志と行動により、熱い想いのルーマニア精神が復活し、新たな若い世代の方々が共鳴し、バトンが繋がった証と言えるのではないのでしょうか。

まさにウルスダンスのテーマそのもの。

自然の法則により、年を重ねて進化していき益々繁栄する事でしょう。



「行ってみルーマニア」ホストタウン講座と「ルーマニア料理を楽しむ会」ご報告 佐藤 芳則

1月25日(土) 14時から武蔵野市役所西棟811室でフローリン・ポベスクさんによるホストタウン講座が開催されました。

講座に先立ち、市の交流課職員から「武蔵野市のオリンピック・パラリンピック競技大会への取り組み」と題して、「スポーツボランティアHANDS」や「Sport for All」の取り組み、各種大会の開催や誘致、外国人に市の魅力を発信する広報活動やホストタウンとしてのルーマニアとの交流活動の様子などの活動報告がありました。

ポベスクさんの講座はルーマニアの国を地理、歴史、世界遺産、観光名所、名産品、ルーマニア料理、フォークロアなどの観点から総合的に解説するもので、ワインやミティティ、チョルバのおいしさ、ペレシュ城やブラン城の美しさ、トランシルバニア地方の要塞教会やマラムレシュ地方の木の教会、プロピナ地方の修道院の魅力など具体的な話に及び、聴衆を「行ってみルーマニア」の思いに誘うものでした。また、ルーマニア人は楽天的なラテン民族なので、大切な用件は笑わずに真剣に話し、確認をとることが大事だというアドバイスもありました。

講座終了後、ポベスクさんを囲んでエリーザカフェで「ルーマニア料理を楽しむ会」が開かれ、ルーマニアワインとチョルバやミティティ、サラタ・デ・ピネテなどの料理に舌鼓を打ちました。スペシャルゲストとしてパンフルート奏者の櫻岡史子さんのパンフルート演奏も行われ、楽しい楽しい一日になりました。



武蔵野市は、2020東京オリンピック・パラリンピックでルーマニア国の『ホストタウン』です!!!

☆☆☆ 問合せ先：武蔵野市役所 市民部 多文化共生・交流課
(4月より、名称変更になりました)
☎ 0422-60-1806 (直通)

【新年会会計報告】

収入 3500円×19=66,500円
第一ホテル支払い 65,280円

【お知らせ】

新型コロナウイルス流行による武蔵野市のイベントが中止され、春に予定されていた武蔵野市のホストタウンサポーターとしてのボランティア活動や会主催のルーマニア語教室も休止を余儀なくされました。

↓ 当会へのご連絡・問い合わせ等は下記へどうぞ

- *「会」E-mail アドレス : musashino_brasov2020@yahoo.co.jp
- *「会」ホームページ : <http://musashinobrasov2020.g2.xrea.com/> (調整中)
- *連絡先 : (Fax) 0422-46-9666
(Email) kichijoji@tokyo-net.ne.jp (当会 理事長 大橋 一範)
〒180-0003 武蔵野市 吉祥寺南町 1-4-1 井の頭ビル7F
(編集) 佐々木・藤田(協力) 大橋事務所 加藤(志)